

氏名(本籍)	かわのあつこ 川野亜津子(東京都)		
学位の種類	博士(ヒューマン・ケア科学)		
学位記番号	博甲第5067号		
学位授与年月日	平成21年3月25日		
学位授与の要件	学位規則第4条第1項該当		
審査研究科	人間総合科学研究科		
学位論文題目	出産後3カ月までの母親における心理状態と母乳中免疫物質との関連		
主査	筑波大学教授	教育学博士	徳田克巳
副査	筑波大学教授	医学博士	中谷陽二
副査	筑波大学教授	博士(医学)	江守陽子
副査	筑波大学講師	博士(理学)	松田学

論文の内容の要旨

(目的)

産後の母親の心理状態についてその種類と推移, および唾液中ストレス指標である cortisol 濃度の推移について明らかにし, それらを踏まえて, 母親の心理状態の母乳中免疫物質への影響について明確にすることが目的である。

(対象と方法)

1. 母乳中免疫物質に影響をおよぼす母親のストレス因子について文献検討した。
2. 産後の母親における心理状態とその推移について明らかにするために, 心理尺度による縦断的調査を行うとともに, 母親の心理への影響因子について関連を検討した。
3. 唾液中ストレス指標として多くの先行研究で用いられている cortisol 濃度について産後の母親における推移および心理尺度との関連を明らかにすることを目的として, 唾液中 cortisol 濃度の縦断的調査を行った。
4. 母乳採取法の違いによる母乳中免疫物質濃度への影響について予備調査を行った上で, 産後の母親の心理状態と母乳中免疫物質との関連について明らかにした。

(結果)

1. 母乳中免疫物質に影響を及ぼす母親のストレス因子について

文献検討を行った結果, 総計 13 件の文献を得た。母乳中免疫物質は母親の「栄養状態」「運動」「感染症」「分娩時ストレス」「心理・ストレス状態」「疲労」「経済状態」「年齢」「喫煙」「性格」「ストレス感受性」に影響されるという報告があった。しかし, 研究報告数はわずかに 13 件, そのうち母親の「心理・ストレス状態」との関連をみた報告数は 5 件のみであることが明らかになった。

2. 産後の母親における心理状態の種類と推移, 関連要因について

産後の母親の T-A (緊張-不安), D (抑鬱-落ち込み), F (疲労), C (混乱), 精神健康度は産後 3 日から 12 週にかけて漸減傾向, 産後 2 週, 4 週において変動を示す心理であり, 特に T-A (緊張-不安), c (混乱) の心理は変動が著明であった。また A-H (怒り-敵意) の心理は産後 3 日から 12 週にかけての得点の推移は著しい変動がなく, V (活気) の心理は産後 3 週以降 12 週にかけ上昇する心理であることが明

らかになった。

一方、ボンディングはA-H（怒り－敵意）の心理以外の項目において、POMS、GHQ、STAIの心理尺度と関連していた。家族・地域のサポートは産後8週でPOMSのD（抑鬱－落ち込み）、A-H（怒り－敵意）の心理およびGHQとの相関が認められた。

3. 産後の母親の唾液中 cortisol 濃度の推移と心理尺度との関連

cortisol 濃度の縦断的調査より、産後の母親の唾液中 cortisol が産後3日を最高値とし産後3週まで漸減傾向、その後12週まで、大きな変動がないという推移が明らかになり、またGHQ得点との関連が深いことが明確になった。

4. 産後の母親の心理と母乳中免疫物質濃度との関連

産後2週において、母乳中SIgA濃度とストレスの主観的指標との関連についてPOMSのT-A（緊張不安）、D（抑鬱－落ち込み）A-H（怒り－敵意）、F（疲労）、C（混乱）のnegativeな項目全て、およびGHQ得点との間には有意な負の相関が認められた。またストレスの客観的指標である唾液中 cortisol 濃度とは負の相関、唾液中SIgA濃度とは正の相関が認められ、母親の心理状態が母乳中免疫物質に影響を及ぼす因子であることが明らかになった。

（考察）

産後3ヵ月までの母親の心理は不安－緊張、抑鬱－落ち込み、怒り－敵意、活気、疲労、混乱、など様々な心理が存在し、かつ産後3日を最高として12週までに漸減傾向を示し、さらに2週と4週において再びその心理が強く表れるという変動がある。母親の心理状態が母乳中免疫物質にも影響するという結果は、母乳育児が推進される中、見過ごしてはならない問題であることが改めて認識された。この結果を踏まえ、産後の母親の心理状態に影響する因子についても今後さらに研究される必要があると考えられた。

審 査 の 結 果 の 要 旨

本研究は、産後の母親の心理状態についてその種類と推移、および唾液中ストレス指標である cortisol 濃度の推移について明らかにし、それらを踏まえて、母親の心理状態の母乳中免疫物質への影響について明確にしたものである。このような研究は、日本のみならず外国でも行われていない極めて独創的な研究であり、高く評価される。

よって、著者は博士（ヒューマン・ケア科学）の学位を受けるに十分な資格を有するものと認める。